

## 2016 年度活動報告 GJP 授業： インディペンデントスタディ 文法・読解 4

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

### 1. クラス概要

本クラスは、秋学期に日本語レベル3～4（中級前半～後半）の学習者を対象とする。1週間のコマ数は3コマである。クラス目標は、「①中級後半レベルの文章を読んで理解し、それに関連する内容について説明したり、意見を述べたりすることができるようになる、②他者の考えを知り、理解を深めることができるようになる、③話しことばと書きことばの違いについて知り、やや長い文章を書くことができるようになる」である。使用教材は、『中級を学ぼう中級中期』（リー・エネットワーク）である。

### 2. 授業内容

授業の内容は、通常の学期（春・秋）とは異なり、学習者が自ら学習計画を立て教師のサポートを得て学び計画の達成状況を管理するという自律学習形式をとった。具体的には、秋学期にレベル4で学んだ学生は「①自ら学習計画を立てて、日本語の学習を管理できるようになる、②秋学期のレベル4の内容（文法・読解）について、自分が弱いところを知り、弱点を重点的に復習する」、そして、秋学期にレベル3で学んだ学生や春学期にレベル4をスキップしてレベル5に入りたい学生は、「自ら学習計画を立てて、予習を進める」こととした。ただし、以上の自律学習とは別に必須課題（宿題）として、レベル4の使用教材の中で通常の学期授業では扱わない各課の「プラスアルファ」と「関連読み物」の提出を定期的に課した。ただし、この課題はクラス内でもクラス外でも良いこととした。本クラスでは、学習の内容や仕方に関しては各学習者の自主性を尊重し、クラスとしては各学習者が集中して自習でき教師のサポートが必要な場合に気軽に申し出ることができるように心掛けた。

### 3. 成果と今後の課題

ほとんどの学習者は、学期を通じて自主的に集中して学習に取り組んでいた。学期末アンケート（有効回答数15）では、「（この授業に）満足」が11、「まあまあ満足」が2、「あまり満足でない」が2だった。今後の課題としては、通年の日本語プログラムにおける本クラスの位置づけと主要な目的をより明確化する必要があるだろう。学習者自身の学習管理を重視するのがあるいは個々の学習者の具体的な日本語技能の実質的な向上を図るのかによって、課題も改善点も異なってくるだろうと考える。